

# 学校だより 安佐北

修学・克己・敬愛

広島市立安佐北中学校・高等学校

TEL 082-818-0656-0600 FAX 082-818-5140  
web http://www.asakita-h.edu.city.hiroshima.jp

平成 24 年度  
第 9 号  
3 月 1 1 日  
(弥生)  
(MARCH)

## 『曾子曰、君子以文会友、以友輔仁、』 (論語)

曾子曰く、君子は文を以て友と会し、友を以て仁を輔く。

曾子が、悪友ではなく畏友（良き友・尊敬できる友）を見つけることの大切さを説いた部分で、学問によって知り合った友人であれば相互に仁徳（人間性）を高めあっている可能性が高いということである。



沈丁花

ないと気づき、当たり前の日々に、自分の周りにいる友達や家族とのつながりに感謝しました。

そして、学校生活や部活動での中心となり、様々な責任を負うようになった5年生。まだまだ楽しむこと優先だった自分も、この頃から徐々に将来の進路を考えるようになりました。クラスでは、ともに騒いで笑い会える友達がいて、まだまだ幼い自分のことを、勉強でも私生活の場面でも支えてくれました。また、生徒会では不甲斐ない自分を会長としてたててくれ、行事の面では、遅くまで一緒に残って準備した生徒会メンバーのみんな。発足時には不安だらけでしたが、任期を終えてみると最高のメンバーだったと胸を張って言えます。部活動では、後輩の手本になろうとして、少し背伸びしていたような気がします。そんな自分でも慕ってくれた後輩たち、信頼し置きなく話ができて、ともにサッカーに明け暮れた同級生のチームメイト。決して強くはなかったけれど、最高のチームでした。

呉での校外学習や安佐北道場、修学旅行やクラスマッチ、そして何より何気ない毎日の授業や昼休みを通して、改めて友達やクラス、学年、先輩、後輩、そして家族との絆を感じ、その絆の大切さ、強さを再認識できた一年となりました。

ついに最高学年の6年生。入学時に比べれば、みんな大人びて、なんだか自分だけおいていかれているのではないかという焦燥感に駆られました。けれど、友達は等身大の自分を受け入れてくれ、先生方はできるだけサポ



ートをしてくださいました。部活動も引退し、いやでも自分の将来と向き合わなければなりません。けれど、いくら考えても自分の頭の中に浮かぶ将来の自分なんて、漠然として、とにかく一日一日を必死に過ごすことで精一杯でした。夏休み。毎日の自習室の勉強も、ともに頑張る仲間がいたから自分も頑張れました。息抜きも大事と言いながら、息抜きばかりしていた日もあったけど、その日々があったからこそ辛い受験勉強も乗り越えられました。

思い出せばきりのない三年間。これから先の長い人生の、一瞬にしか過ぎない三年間。その中のほんの一部にしか過ぎない高校生活。しかし、この三年間はこの先私たちが思っている以上に意味を持ち、大きなものになるでしょう。私は、また明日も、その先も、教室に行き、友達と挨拶を交わして、たわいない話で盛り上がる。時には授業中にもかかわらず盛り上がりすぎて先生を困らせる。そんな幸せな毎日が当たり前のことのように、まだまだ続くのではないかと淡い期待も捨てられずにいるのが正直なところです。しかし、花は散るからこそ美しいように、私たちのこの高校生活も終わりがあるからこそ素晴らしい思い出となるのでしょうか。高校生活は終わっても仲間との思い出やつながり、先生方への感謝の気持ちは消えることはありません。高校生活で得たすべてを、これから先大切にしていこうと思います。また、自分はどれだけ周りの人に恵まれていたのかを、卒業というきっかけで思い知ることができました。いつでも私のそばに友達が、先輩が、後輩が、先生が、家族がいたからこそ笑いがこぼれ、幸せだと感じられました。さりげない出来事も、今は大きくて忘れられません。今日まで、その周りの人たちに、私はどれだけ手を焼かせて、迷惑をかけたのか、はかり知ることができません。でも、自分が恵まれていることに気づいた今日からは、少しずつでも感謝の気持ちを伝えていきたいです。そして、後輩たちには、周りの人があってこそ自分の存在なのだという感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。やってしまったことへの後悔は、だんだん小さくなります。でも、やらなかったことへの後悔は、だんだん大きくなっていきます。これだけ恵まれた環境で、信頼しあえる仲間がいるのだから、是非やりたいことへは果敢に挑戦してください。

そして、ともに卒業する皆さん。今、私たちは、こうして後ろを振り返るより、これからの長い未来に向けて、前を向かなくてははいけないのかもしれませんが、この安佐北で過ごした貴重な思い出は心にしまい、これからの毎日

で生きることで、自らを支えてくれた人たちに少しでも恩返しをしていきましょう。

こんな未熟な私を大きくするために、大切な友人たちを与えてくれたこの安佐北は、偉大な母校です。その母校、安佐北を卒業できることへの誇りと、私たちに関わってくださったすべての人に対して感謝を述べて答辞とさせていただきます。

平成 25 年 3 月 1 日

卒業生代表 鬼村 直生

## ◎ 和風堂（上田宗箇流）で学ぶ

1月23日（水）、本校2年生が上田宗箇流茶道を学びに、西区にある和風堂に行きました。



生徒の感想：今日、上田宗箇流を学びに和風堂に行きました。すごく広くて、「THE 和風」って感じがしました。正座は辛かったです。でも、お菓子とお茶はおいしかったです。次が楽しみです。



## ◎ 平成 24 年度『ことばの輝き』優秀作品コンクール」表彰式

本校1年生 小野亮裕君がみごと最優秀賞に輝き、表彰式に出席しました。



1月31日（木）、広島市まちづくり市民交流プラザにおいて、平成24年度『ことばの輝き』優秀作品コンクールの表彰式が行われました。小野君の作品は、「人類の課題」というテーマで、人類がなすべきことについて述べてあり、その論理的な表現力が認められ最優秀賞に選ばれました。



## ◎ 第13回全国高等学校版画選手権大会出場

第13回大会初戦審査会が平成25年1月10日（木）に開催され、3月19日から新潟県佐渡市で開催される本戦大会への4回目の出場資格を得ました。



【団体部門 1チーム 生徒3名、監督教諭1名】

増田 啓志（5年） 天野 優美香（4年）  
上本 真澄（4年） 谷原 弘樹 教諭

（了）